

令和 7 年 7 月 29 日

東員町議会教育民生常任委員会

委員長 片松 雅弘 様

東員町議会教育民生常任委員会
委員 広田 久男

研修報告書

研修期間	令和 7 年 7 月 10 日 (木)
研修（視察）先	議会委員会室
目的（テーマ等）	がん検診の現状と今後について
参加議員名 (複数の場合)	教育民生常任委員会 委員 6 名
資料添付の有無	● 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

(字体は「BIZ UDP ゴシック」に変更しています。ユニバーサルデザインフォント、誰にも読みやすい字体)

■勉強会テーマ がん検診の現状と今後について

1.説明概要

(1)がん検診を受けるには、市町村が実施する「住民検診」、企業等が行う「職域検診」、その他個人が任意に受ける検診(人間ドック)などがあり、「住民検診」は国民の2~4割、残りの6~8割は「職域検診」等を受診しているようです。(厚労省調べ)

(2)本町のがん検診は国(厚労省)の指針に従い、研究を通して科学的に有効と証明されたがん検診を実施しています。

種類	検査項目	対象年齢
胃がん検診	胃部X線検査	50歳以上
大腸がん検診	便潜血検査(2日法)	40歳以上
肺がん検診	胸部X線検査および喀痰細胞診	40歳以上
乳がん検診	乳房X線検査(マンモグラフィ)	40歳以上
子宮頸がん検診	細胞診検査	20歳以上
※前立腺がん検診	血液検査(PSA検査)	55歳以上

※前立腺がん検診は、本町独自で男性のみに実施している。

(3)本町のがん検診受診率は種類により差異はありますが、7%~20%程度です。

2.所感

(1)人が生きてゆく上で最も幸せで大切なことは「病気にならず、健康であること」。難病にかかり妻を亡くした体験から「健康第一」を痛感しています。
そして、日本における死亡原因の第1位は「がん」です。がんによる死者数は2023年実績で約38万人(男性22万人、女性16万人)を超えています。

(2)日本人の死因トップであるがんの多くは、早期発見により助かる確率が高いにもかかわらず、がん検診の受診率は著しく低い現実を知り、検診を受ける人を増やす施策を講ずることが最重要課題であると判断しました。

本町では、がん検診の受診勧奨ハガキや文書を対象者に送付していますが、受診率は上がっていません。であれば、そこを改善するために何をすればよいのか、を考え抜き実行することです。

(3)ネット検索した結果、分かりやすいメッセージに変えただけで受診率が向上したことが紹介されていました。

①検診費は補助が使えることを強調しつつ、「高額な検査」=「正確な診断」との印象を与えるような文書にした。

②申し込み方法、受診時期を分かりやすく記載。
③発信者である自治体名を分かりやすく記載。
④文字の大きさやフォント、色や囲みなどで、最も伝えたいことを強調。
⑤検診へ促すメッセージを「受けましょう」から「受けてください」と強い表現にした。
など、
低い受診率を改善するために、全国各地の自治体ではどんなやり方や工夫をしている
のか、徹底的に調べてみること。そして、取り入れられることは実際にやってみること
だと考えます。

(4)また、厚生労働省では「がん検診のあり方に関する検討会」を開催し、いろいろ議論さ
れているようです。

医療界や専門機関の動向なども含め、最新の情報をいち早くキャッチし話し合えるよう
な担当課内の体制整備は必要ではないかと考えます。

以上